

松本障害保健福祉圏域自立支援協議会 部会・プロジェクト議事録

<p>部会・プロジェクト名 R3年度 第1回 しごと部会</p>	<p>開催日：令和3年5月10日（月） 時 間：13：30～15：00 場 所：梓川公民館 第3会議室</p>
<p>参加者構成機関名 松本市障害福祉課、塩尻市福祉課、安曇野市福祉課、筑北村住民福祉課、松本公共職業安定所、松本保健福祉事務所福祉課、松本養護学校、寿台養護学校、基幹相談支援センター、総合相談支援センターWish、長野県セルフセンター協議会、希望の家、チャレンジ松本、安曇野市社会福祉協議会、就業・生活支援センターらいと、障害者相談支援センターぴあねっとまつもと、マシュマロ、就労センターそら、協議会事務局</p>	
<p>次第 1 自己紹介 2 自立支援協議会について 3 令和2年度の振り返り 4 今年度の活動について 5 その他</p>	
<p><b>会議内容</b></p> <p>1 自己紹介</p> <p>○部会長 江原さん（松本市障害福祉課）…大森さんの後任、副部会長 海老原（基幹相談支援センター）</p> <p>2 自立支援協議会について 事務局より説明…資料参照</p> <p>3 令和2年度の振り返り</p> <p>○主にB型事業所の課題抽出のためのアンケート調査を実施し、まとめを行ってきている。</p> <p>4 今年度の活動について…資料参照</p> <p>○調査のまとめ（別紙）について、幹事会に報告し、事業所へまとめをお返しさせていただくことのできることを得る。</p> <p>○B型事業所連絡会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会を開いても、その場ですぐにあげる難しさがあり、ある程度の道筋、枠組みをつけていく必要がある。</li> <li>・連絡会を開いた先に何が出てくるか。話すだけで終わるのではなく、何かにつながるものが必要。開催には準備が必要。</li> <li>・様々な障害のある方の受け入れをしている中で、どうやったら安心した生活のサポートができるのか？集約して突破口が開けられれば…。成果、報酬に左右される中で事業所としての仕事、役割は何か？小さな一歩でも進めていけると良いのではないか。</li> <li>・職員も作業に追われ、相談できる場がなく、事業所内での解決も難しいところがある。横のつながりで相談できることのメリットはあるのではないか。</li> <li>・事業所が多いので、参加のしやすさを考える必要。敷居を低く、顔の見えるつながり作り。近いところから集まると良い。エリア毎で集まりやすいところから。研修といったきっかけも有効か。</li> <li>・事業内容が学校等関係機関で共通理解できると良い。圏域として目で見てわかる情報提供できるものがあると良い。</li> <li>・学校にはあまり情報がない。そのため、実習しないとわからないとなっている。こういった連絡会があれば学校としても相談できるのでありがたい。進路指導委員会で卒業生の進路は把握している。</li> </ul>	

卒業生が豊かに生活できる道筋が支援できると良いと思っている。

- 学校では家族支援の必要な方が増えている。各機関との連携の大切さを感じている。
- 会ではアンケートにはなかなか書けないところもお聞きできるのではないか。制度についての問題提起もできるまでの議論できると良い。
- 会のコアになるメンバーも検討できると良いのではないか。
- まずはアンケートで出ている課題を話し合うところから始められれば良いのではないか。関わっている事業所が一部なので、連絡会があればいろいろな事業所に関われるきっかけになるので、ありがたい。
- しごと部会と連絡会のすみわけをどうするか？それぞれの役割やどこが主導となるか。アウトラインを大事にする必要。受け身の参加から、主体的に参加してもらおうようになるためにはどうすれば良いかも考えられると良い。
- 課題の中には事業所内で解決すべきものもある。事例検討はプラスに働くのではないか。
- それぞれの状況が知れる場、協議のできる場になると良い。

#### 5その他

- 就労アセスメントについて・・・資料参照  
今年度の就労アセスメントは通年通りの実施となる。

次回 開催日時：令和3年6月15日 13：30～ :